67days
—3.11 からの復旧—

3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震とその余震では、筑波大学附属図書館の筑波地区の各図書館も施設・資料に大きな被害を受けましたが、その後は復旧が進み、一部を除いて今まで通りのサービスが提供できるようになりました。震災直後から復旧に向けたいろいろな取り組みをしてきましたが、それらを記録としてまとめて残していないことに気が付きました。改めて被害の状況や復旧の取り組みを振り返り、「記憶を風化させないために」ポスターという形で記録し、今後の震災への備えの一助になればよいと考えています。

なお、今回のポスターは図書館職員有志が行っているチラシやポスターなどのデザイン勉強会（FlyerLab. と命名）の成果発表の場でもあります。図書館総合展という場所で、自分たちの考えたデザインがどう見られるのか、作成者一同楽しみにしています。

We are
F l y e r L a b.

mash
（震災当日）
garu
（翌日からの一週間）
bali
（部分開館に向けて）
k-show
（復旧ボランティア）
beko
（復旧、その後）
gon
（全体編集）

震災当日
by mash

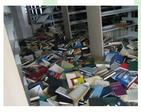
最初はいつものちょっとした揺れかと思った。

小さな地震はそれなりに起きている土地柄です。利用者も普段からある程度は慣れています。カウンターで対応中だったため、利用者と「もしかして地震でしょうか」と話している間に、さらに揺れが大きくなりました。

地震だ。それも相当大きい。

そして停電。

同じフロアの利用者に、机の下に潜るよう指示をしました。
バックヤードで勤務中だった職員が、一斉に館内を見回りに出ます。
その間にも、上階の本が書架からばさばさと降って来る様子が吹き抜けの窓から見えています。
大きな揺れが収まってから、利用者をひとまず館外へ避難させました。
ことさ避難を優先したため、身近に荷物があった利用者はともかく、ロッカーの中の荷物等は取り出さないよう お願いして、とにかくまずは外に出ていただきました。
各階ともその落下は激しく、特に3，4階にあっては書架の間の通路はふさがれている状態でした。



上階にいた利用者の中には、散乱した本を踏まずに避難することができないため、非常に躊躇された方もいらっしゃいました。
でも、まだ揺れは続いています。建物がどうなるかわからないので、通路確保のために本を撤去している時間がありません。安全確保が最優先ということで、職員も利用者も泣く泣く本を越えて外に出ました。

建物の外に避難している間にも、次々余震がくる。

大きな地震ではありましたが、揺れている間に館内に入ろうとする方、戻ろうとする方が後を絶ちません。
余震で建物が倒壊する恐れもあるので、その旨を伝えて、立ち入りは諦めていただきました。
どうしてもという方には、すぐに取り出せるような位置にある荷物は職員がそれぞれに取りに入ったり、ロッカーの中にある荷物は後日取りに来るようお願いしました。

情報が入らない。

全学的に停電が起きたため、固定電話が使えず、大学内の情報が入りません。
ラジオの入りも悪く、東北のほうで大きな地震があったようだ、ということがわかるだけです。携帯電話も PHS もつながりません。
ひとまず周囲とその場にいた人々の安全を確認して、待機することになりました。その後徒歩で避難場所指示がもたらされ、待機していた人々を避難場所へと誘導しました。

筑波地区の３つの分館は。

停電で電話が通じないため、職員は直接行き来をして情報を伝達しあいました。

一番被害がひどかった体芸図書館では、ガラスが壊れ、天井も落下し、館内は歩けないような状態であることが伝えられました。
医学図書館では、本の落下の他に、水道管が折れて水漏れが発生したとのこと。
図書館情報学図書館では、本は落下したが、建物には特に異常はないとのこと。
全員とも、利用者に怪我はなかったのが不幸中の幸いです。
東京地区にある大塚図書館とは、このときすぐには連絡がつきませんでした。

当日の被害状況確認。

待機の後、大学からの避難指示が帰宅指示へと切り替わりました。
状況確認のために、防災対策をした上で、改めて館内に入りました。
まず中央図書館では、ヘルメットを着用し、電気が点かないので懐中電灯を持ち、二名一組となって、書架の間に人が倒れていないか等を確認して回りました。
幸いにして、その時点での大きな建物の損壊や、書架の倒壊は見つかりませんでしたが、断水が起きていることがわかりました。

その後医学図書館でも同様の確認が行われ、浸水被害を食い止めるために、ルーシートをかける等の対策を行いました。
幾分温度は、信号機が停電のため作動せず、主要な交差点には警官が立ち、手旗信号で指示を出していました。ガソリンスタンドにはすでに長蛇の列が出来ていました。

翌日からの一週間
by garu

怒涛の一週間

手探り、そして復旧への道筋

来てはみたけれど…
Shock!

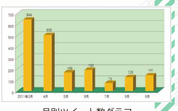
学内のインフラも大きくダメージを受けていて、断水が続き、飲料水やお手洗いの確保に難儀しました。病院に隣接したせいか水が出ていた医学図書館に水汲みに出向いたりもしました。

利用者さんの荷物、どうしよう？
Baggages!

とにかく利用者さんの避難を優先したため、館内には荷物が相当量取り残されていました。図書館は当面閉館で、学内も入構制限が行われていましたが、荷物を探しに来る学生さんが多くいました。そのため、警備員室に荷物を預けてある旨を図書館入口に掲示しました。

どうやって情報を伝えよう？
Announcement!

とりあえず電源は復旧したものの、計画停電の話が持ち上がり、サーバーが不定期に停止する可能性もありました。そこで仮 Web ページを立ち上げる一方で、Twitter アカウントを取得して情報発信を開始しました。同じ情報を英語も交えて繰り返し流していたせいもありますが、3 月 14 日から 31 日の ツイートは 644 件に上りました。



月別ツイート数グラフ

さっそくご支援の声が！
Offers!

被害状況を Twitter などで流したところ、3 月 15 日の時点ですでに「復旧を手伝いたい」とのお申し出を頂きました。その時点では学内も危険な箇所が多く入構制限が行われていたことから、お気持ちだけ頂戴しましたが、お申し出はその後も続々と寄せられ、入構制限解除後の学生ボランティアさんにも復旧作業へと繋がっていきました。

全国からも支援の手が
Supports!

17 日、国立大学図書館協会からの被災大学所属の教職員・学生向けの図書館サービスについてのお知らせのほか、savelibrary(→MLAK) の支援情報も告知させて頂きました。

とにかく安全第一
Safety!

学生さんが無理に本を返しに来ないよう に、返却期限の延長や、被災した旨を申告した場合はペナルティが付かないようにするなどの措置を行ないました。

各館の様子は？
Other Libraries!

体育・芸術図書館は、応急診断で建物への立ち入りが禁止されたため、職員は中央や医学図書館で復旧作業の応援に入りました。
医学図書館は、天井からの漏水で資料の水濡れ被害が多数発生したため、乾かして使えそうな資料をより分け、ひたすら乾燥を行いました。

ようやく道筋が！
Loadmap!

上記のほか震災から一週間は、大学本部や文部科学省などに宛てた被災状況の報告書・復旧予算の要求書の作成が特に慌ただしかった時期でもありました。
またこの一週間を過ぎる頃には、大学本部からも今後の見通しが出始め、部分開館とサービス再開を目指して、図書館の本格的な復旧作業に取り組み始めました。

復旧ボランティア
by k-show

一刻も早いサービス再開をめざして！

余震、断水、学内入構制限等、先が見えない状態が続きました。しかし、早くサービスを再開したい！元に戻したい！という思いは焦燥感に変わり、分担して復旧作業を進めていきました。

電子的サービスの再開

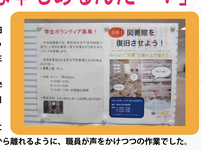
14 日に Twitter を開始し、16 日に Web ページを立ち上げました。予約、取り寄せ、e-DDS、ILL 等、利用できない Web サービスが多数あり混乱が予測されたため、当初は臨時版 HP としました。部分開館を開始した 29 日に通常版に戻しました。
また、紙の資料が使えないからこそ提供が急がれた電子ジャーナルやデータベースは、17 日からサービス再開となりました。大学内に入れなくても、一部はリモートアクセスで学外からの利用も可能です。
Web ページ再開当初は大規模停電の可能性があり、その都度サーバーを停止しました。安定的なサービス提供までにはしばらく時間がかかりました。

復旧作業（中央図書館の場合）

中央図書館は、3 年間にわたる耐震改修工事がこの 2 月に終了したばかりでした。そのおかげか建物には大きな被害はありませんでしたが、蔵書の約 6 割 1 1 0 万冊が書架から落下しました。数千冊の図書が破損しました。
強い余震で支柱が落下するかもしれない、ゆがんだ書架の修理・調整時は資料が入った状態でよいのか等、不確定要素はありましたが、1 1 0 万冊の仮置き場などあるわけもなく、覚悟をきめて書架へ本を戻すことにしました。
書架間だけでなく、通路まで本が埋め尽くし、本を踏まずには館内見回りもできない状態。まずは通路を作るところから開始です。作業順序は、部分開館に向けてメインフロア 2 階 → 耐震改修工事終了に伴う資料移転作業中だった 1 階・中 2 階・本館 5 階（4/5 に業者作業再開）→ 本館 3 階・4 階（図書）→ 新館（雑誌）。
作業開始当初は、見渡す限りの本の海に途方にくれましたが、明けも夜はないのですね。部分開館前日までの作業量は延べ約 320 人。学群学生の学内入構規制の解除より早く、3 月 2 9 日に部分開館を果たすことができました。

部分開館に向けて
by bali

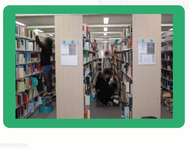
「へえ～、こんな本もあるんだ～！」



それまで職員中心に進めてきた震災復旧作業ですが、一日も早い開館を、という思いから、中央図書館の復旧作業に学生ボランティアを募ることとなりました。
幸いにもたくさんの学群生・院生・留学生の方々にご協力いただき、中には連日参加の学生さんも！
まだまだ余震も多いため、作業フロアにはラジオ、揺れを感じたらすぐに書架から離れるように、職員が声をかけつつの作業でした。

作業のために館内に足を踏み入れ、大量の図書の雪崩を目の当たりにして驚いたのも最初だけ。慣れてしまえばあとはひたすら作業です。基本スタイルは作業用の軍手に、埃よけのマスクを装備、暖房も入らないため、寒さを感じることも多かったかと思います。
そんな厳しい状況の中でも、学生さん達は元気いっぱい。
「へえ～、こんな本もあるんだ～！」「これ、おもしろそう！」
「ねえねえ、この分類ってどっちが先？え～と LMN だから…」
などなど、お友達同士で和気藹々と作業することもあれば、一人で黙々と作業、ということも。みなさんそれぞれ部合のよい時間に参加してくれました。
作業中、普段は手に取ることのない分野の図書を目にしたり、図書がどう配架されているかを再確認したり、いろいろと発見もあったようです。

参加人数は１５日間（中央図書館）で延べ４７５人！
後日図書館長より、感謝状と記念品の贈呈がありました。
みなさんお忙しいなか本当にありがとうございました！



復旧、その後
by beko

取り戻された日常

各図書館の状況

たくさんのひとたちの協力と助ましのおかげで図書館の機能は復旧しました。どうもありがとうございました。心より感謝申し上げたいと思います。
ここに当時の Twitter で発信した情報と合わせて現在の状況を記します。

中央図書館：→現在完全復旧

これで、中央図書館は 4 階ラウンジを除いた全てのエリアが復旧しました。階段・渡廊外壁の間、大変ご不便とご迷惑をおかけしました。また復旧作業にご理解と多大なるご協力を頂きまして、本当にありがとうございました。
5 月 12 日 web から

中央図書館は地震の直前に耐震改修工事を終了したばかりでした・・・。工事期間中一時保管されて保管されたり、別置されたりしていた資料の利用も再開されました。

耐震改修工事期間中にご利用頂けなかった旧東京教育大学図書が、本日 5 月 9 日より 1 階・中 2 階でご利用頂けるようになりました。長く間大変迷惑をおかけしました。
5 月 9 日 web から

体育・芸術図書館：→5 月から開館時間を短縮して、資料は出納方式に。2 部分開館実施中、夜間開館はしていません。被害甚大であった書架は撤去され、現在は建物の修復を全面的に行うため資料の一部は中央図書館の書庫に移動されています。本年中は利用制限される予定です。

なお、本日からの体芸図書館 2 階の部分開館は、本格的な復旧工事開始まで の限定サービスです。復旧工事期間中は建物が利用できなくなる可能性があり、その間のサービスについてまでは、決定次第お知らせいたします。（中央みたいに、利用可能エリアが少ないというのは ではありますが。）
5 月 23 日 web から

医学図書館：→現在完全復旧。施設の復旧は早かったものの水漏れなどの被害もありました。

11 日に隣接した、筑波大学附属図書館の医学図書館の様子です。天井から水漏れしたため、資料を守るために シートをかけています。すでに水漏れしてしまった資料が多くあります。http://twitpic.com/49cu4e
3 月 14 日 Twitpic から

図書館情報学図書館：→現在完全復旧

大塚図書館：→当時新校舎建設のために仮校舎で間借りしていましたが、大きな被害なし。
なお、本年 9 月 1 日から元の場所に建てられた新校舎で、運用が再開されました。

“ “復旧” は施設とサービスのみを指しています。資料は廃災で落下、または水漏れなどで破損したものも大量に存在します。これらは現在修復等の処理を施しています。 ”

こぼれ話

・今年度から夜間カウンターに入ってもらっているのが本学学生の皆さんです。先に書いたとおり、体育図書館は夜間開館しないため実は体芸でアルバイト予定だった方たちは中央図書館で働いてもらっています。
・今回震災直後に電話の音声通話は固定電話も携帯電話も真っ先に使えなくなりましたが、逆に使えたのはデータ通信です。特に Twitter による情報共有は学生を中心に日常的に行われ、その生活へ速活度合いに驚かされました。
・震災後にはラジオも大活躍しました。特に余震が続いているなかの資料の戻し作業中など、まだまだ使えますね。
・テレビによる取材も数回行われ、こちらの反響も大きかったです。遠くから資料の戻し作業を手伝いたいという お申し出が快速直後から多数あります。かなり大学内の方がテレビを直接見ていて、心配して声をかけていただきました。

計画停電はなかったけれど・・・

日本各地の原子力発電所が整備などのために停止したため に夏の電力不足が起こりました。
政府は電気事業法第 27 条に基づき電力の使用制限を実施しました。昨年に比して同時期の使用最大電力の 15% 削減が求められ、それを超えると罰金が課せられることになりました（第 1 次オイルショック以来 37 年振り！）。
大口需要家である大学も電力使用制限のためにさまざまな対策を取りました。
冷房温度設定を高くする、スーパークールビズによる軽装勤務ななど、なかでも冷房の省エネのために“グリーンカーテン”の流行がありました。ヘチマやゴーヤーの生育により建物内の温度上昇を抑制する効果が期待されました。

ゴーヤーは思いの外よく育ち、カーテンの下の通路に落下するかもしれないという別の懸念も生じました。幸い手入れと注意のおかげか大事には至っていません。ちなみに夏の電力は 7 月から 9 月までの間で約 21% 削減されました。なお、“ゴーヤー爆弾” と称されたゴーヤーの実も 10 月 7 日には撤去されました。

中央図書館のゴーヤ撤去作業ですが、先ほど終了しました。南側（第一エリア側）入口もご利用頂けるようになりました。ご不便をお掛けしました。
10 月 7 日 web から